

一般質問



久 枝
議 員

一、松浦高校支援事業成果と26年度追加支援について
二、志佐町浦免・浸水被害に対する関連事業の進捗状況について

質問

答弁

一、25年度から支援事業として入学準備金と下宿費及び市内航路通学費の補助が、進学及び就職支援事業として模擬・就職・資格試験等の各受験料費用補助が、また部活動強化対策事業等が補助制度として予算854万円が措置されている。より一層の効果をとの考えから、松浦鉄道運賃の全額、上限を設けての修学旅行費の2分の1、市内通学者を基準にしたバス運賃全額を追加支援事業として提案していたが、どのように検討されたのか伺います。

二、(1)市政概況報告に示されている浸水対策に対する補助制度の検討とは、どのような事業化なのか。

(2)排水対策とはポンプによる排水か。

(3)佐々町では3機のポンプを設置し、維持管理委託費に年間3千万円もかかるという。担当課としてはどう考えるか。

(4)浸水エリア内に安全性を確保した小型プールを設置して雨水を溜め、緊急時には消防ポンプ車で下水路に放出し、平常時は埋設したパイプから放出する対策をとれば、維持費もあまりかからないと思うがどうか。

一、支援事業については、市内唯一の高校を何としても存続させ、魅力ある学校であって欲しいとの思いから実施しています。今後の在り方については、まずは現在の支援策がどの程度の効果を上げたのか検証する必要があります。在校生保護者へのアンケート調査を実施しており、その結果を踏まえて学校関係者の皆様と協議を行いたいと考えています。ご提案頂きました通学費支援等についても協議の中で検討いたします。

二、(1)公共下水道の雨水事業に関する整備計画を段階的に立て、事業化に向けた準備を進めていきます。

(2)志佐町が低地であるため、浦川の水位がある程度上がると、ポンプなどによる強制的な排水を考える必要があります。

(3)強制的排水が必要であれば維持費は相当かかりますが、より効果的で経済的な位置に設置するよう検討を行います。

(4)ご提案の方法も検討すべきと思います。ポンプによる排水以外の浸水対策はできない状況ですので、方法については検討してまいります。

一般質問



木 原
議 員

一、松浦市の高齢社会の現状とこれから課題について
二、総合福祉保健センター建設に向けた担当課としての基本的な理想像について

質問

答弁

一、国は、高齢社会の差し迫った実情に対応するため、総合的な社会保障制度の改革案を取りまとめ、改革スケジュールとしてのプログラム法案を閣議決定し、来年度から順次実施されていくことが見えてきました。団塊の世代が75歳に到達する2025年に向けて、特に高齢者の増加が見込まれ、現状のままでは対応できない状態となります。本市の高齢者の実情はどのような状態ですか。

国の諸制度と実情のギャップ、すき間をどう感じ、これからの本市の福祉政策として、どのような備えをする必要があるのかお尋ねします。

二、福祉保健センターの建設は、福祉行政を推進していく上でも、重要な役割を果たすことができる多機能施設として整備する必要があります。診療施設や子育て、少子化対策にも対応できる機能が必要だと思います。この施設によって元気な高齢者を増やす結果にもつながればなりません。これからの高齢社会に対応するためには、最優先課題として、この問題に市長みずから目鼻をつけていく考えがあるのかお尋ねします。

一、65歳以上の高齢者数は、8月末現在で7千634人です。要介護認定者数が1千591人、うち施設入所者は435人、通所系サービス利用者は568人、訪問系サービス利用者は553人となっています。今後の福祉政策については、高齢者が安心して暮らせるような施策をしていかなければと思います。国が介護保険制度改革を27年度に向けて取り組んでいますので、法案の詳細な情報をしっかりと受けとめ、遺漏のない対策を講じるとともに、その充実を図っていくべきとの認識を持っています。

二、検討委員会から基本構想の答申を受けて5年以上が経過しており、現状と今後を見据えた内容の見直しが必要だと思います。保険と福祉の核施設として整備が位置づけられています。これに医療を加え、市民の福祉の向上や健康の保持と増進、コミュニティの拠点づくりを目指して整備することも必要になってくると考えます。将来を見据えて、安心と生きがいづくりの拠点施設として幅広く検討してまいります。